

自由民主党総裁選挙立候補の表明について

私、麻生太郎は、今回の総裁選挙に立候補する決意をいたしました。

先般の参議院議員選挙において、国民はわが党に極めて厳しい評価を示しました。これまで自民主党を支えてくれた地方の組織や諸団体、党員党友の皆様からは、今のままでは、わが党に対する国民の支持は凋落の一途をたどることになるであろうという悲鳴にも似た声すらあがっています。同時に、わが国自体が政治的空白に直面し、国民生活に多大な影響を与えている状況でもあります。

いまわが党に必要なのは、この危機を乗り越え、一刻も早く国民の信頼を回復し、政権与党としての責任を果たすことです。そのために求められているのは、いかなる困難をも乗り越えて、この党を再生するんだという情熱と気迫を持つリーダーの存在です。

思い起こせば、わが党は六年前、それまでの政策に対して、やはり国民の強い批判を受け、危機的な状況にありました。しかし、構造改革への政策転換を果たすことによって、経済に活力を呼び戻すと同時に、国民の信頼も取り戻し、見事に危機を克服しました。今こそ、その経験と実績を生かす時です。

国民がいま政治に求めているものは、身近な生活に関する不安をいかに克服するかということです。年金、医療、雇用、子育てなどに対して、国民が抱いている大きな不安を短期間のうちに解消しなければなりません。第二に、格差の問題で苦しんでいる地方の方々に配慮し、地域と産業に活力を与えなければなりません。日本にはそのための底力があります。必要なのは、その底力を生かすための政治であります。かつてのばらまき政治とも、市場原理に著しく偏った政治ともひと味もふた味も違う、弱者にもつと光をあてた「思いやりのある政治」なのだと確信しております。

国際社会においては、テロとの戦いで日本の役割を果たさなければなら

りません。私は、この課題に対しても、不退転の覚悟で取り組みます。

政治と金の問題についても、国民は厳しい目を向けています。民主主義の根幹である政治活動の自由を守りつつ、政治資金を透明にし、国民の信頼を回復します。

私は企業の経営者を経験し、経済と経営を現場で学んできました。党政務調査会長として、また幹事長として、党運営に携わってきました。総務大臣として、官僚の抵抗を押し切って地方分権を進めました。外務大臣として、国益を重視し、日米関係の強化と日中関係の正常化などアジアの安定に献身しました。

私には情熱と気迫とともに、経験があると自負しております。私は国民の意見に率直に耳を傾け、衆知を集め、的確な判断をすることで、必ずや国民の信頼を回復してみせます。「蒼生安寧」、国民が安心して生活が送れるようにする。これこそが政治の使命であり、政治のすべてです。

何とぞ、全国の党員党友の皆様、そして党所属国会議員の皆様のご理解とご支援をお願いします。

平成十九年 九月十四日

衆議院議員

麻生太郎